

第6回 江府町義務教育学校設置準備委員会【議事録】

■期日：令和2年10月26日（月）

■時間：19：30～

■場所：防災・情報センター 2階 研修室

<会議出席者>

【委員】手島委員長、谷田副委員長、井上委員、中田委員、河上委員、宮本委員、川上委員、稲田委員、山川委員、北村委員、梅林委員、瀬尾委員、竹内委員

【事務局】富田教育長、加藤課長、景山学事担当課長、岡田主事

1 開会

委員長挨拶

日中働いておられてお疲れのところご参集いただきましてありがとうございます。昨日、江府町立義務教育学校、校名・校舎名応募者表彰式があった。大人の方や小中学校の児童生徒さん、保護者の方など賑やかに来られ、白石町長さんより表彰状が渡された。私と副委員長がお招きいただき、皆さんの代表として参加させていただいた。私の方からも応募なさった皆さんに、とても良い校名や校舎名を応募いただいて本当にありがとうございますということで、ご挨拶を申し上げます。

「奥大山江府学園」は「奥大山江府町」ときょうだいのような名前がつき、とても喜んでいる。町づくりは人づくり、人づくりは教育。町の行政の方ももちろんだが、町全体でかわりながら「奥大山江府町」。我々の学校教育の方は「奥大山江府学園」。これからますます町民の皆さんの力をお借りし協力しながら、教育が今より一層なされていくということで、いい名前を付けてもらったということを皆さんに話した。

「奥大山江府学園」というと、近隣の県外の人もだいたいわかってもらえる。豊かな自然にはぐくまれた自然豊かなところにあるということを知っていただくことになるし、とっても良かったと思う。「ブナの森校舎」は山手の方なのでブナの森。丘の方なので緑の風が吹いているなあと。緑風、そういう感じのところ。それから中学校の方は、「日野川校舎」なので、日野川の清流、清風、清らかな風が流れている。（校歌に）「セルリアン 日野の流れは 若き日の 胸のときめき」という一節があるが、まさしく清風が流れているところということで、どっちもいい風が流れていて、いい雰囲気決めていただいた。皆さんにもお礼を申し上げます。

今日は、校章の選定。見ていただいたのではないかと思うが、県外からの応募もあるし、多数子どもさんのも含めていろいろ良いのもたくさんあるようだ。2番目に校歌。できたら今日で方向性を決めていきたい。江府中学校の校歌を残してほしいという意見もあったし、私はぜひ残したいという方向だが、この際だから作ったらどうだろうか歌詞の編纂委員を作るといった意見もある。できたら校歌の方向性を決めていきたいと思っている。2つのことについて協議を行いたいと思うので、どうかよろしくをお願いします。

2 報告

○保護者・学校の取組状況（小中校長）

副委員長 小中学校の校長先生にお願いしたい。

竹内委員 PTA の組織について。町 P 連の会、PTA 小学校中学校の会長・副会長からなる会だが、9月29日と、10月19日に話し合いを持った。義務教育学校 PTA の組織と会則について話し合い、会則については旅費や慶弔費以外の会則についておおむね決まった。役員の選出方法については、再度練り直しをして、次回11月24日に話し合うことにしている。そして、来年4月のPTA 総会で義務教育学校の PTA 組織の承認に向けて進めていくということになっている。

瀬尾委員 制服検討委員会の通知文をもってきた。保小中の保護者全員にお配りするものだが、先日委員さんも決まった。全部で18人。今回は第1回目なので、制服とは何かということからスタートする。カンコー学生服さんに来てもらって、制服のメリット、デメリットとか、最近の制服の動向などを聞く。制服も展示していただき、制服のたいを把握する。その上でどういう制服にしようとか、さらに何年生からがいいとかということに入っていく。第1回目は誰が来られてもいいようにし、希望を出してもらっている。後半は協議に入って実際に委員長や副委員長を決めたり、今後のスケジュールをどうするかについて話し合う。今年度中には、だいたいこれぐらいだなということを決めつつ、次の年にどういう制服にしようかということで決定のラインにのせて公表ができたらいいと思っている。資料に委員さんの名前を載せている。各学年から出してもらっている。校長が2人入り、事務局は小学校の山本教頭がするというふうになっている。

副委員長 報告があったが、何か質問などあればお願いします。よろしいか。

PTA 組織、制服のことなど着々と進んでいるようなので、今後もまたよろしくをお願いします。

3 協議

(1) 校章選定

事務局 資料をご覧いただきたい。9月15日から10月15日に公募したところ112作品の応募があった。県外の方もいる。この後、112作品を見ていただいて、選定を進めていただく。選定の方法については、前回確認をしたが、再度資料にあげさせていただいた。まず、第1次選考として応募作品の中から6作品を選定する。机上に付箋を6枚置かせていただいている。その6枚をいいと思う作品6つに付箋を貼っていただくというのが第1次選考になる。

その結果、集計をして付箋が多く貼られている6作品を第2次選考にまわすということで進めさせていただきたい。同数になる場合もあるので、一応6位までということで、作品としては6以上になるという可能性もあるが、そのような形で第2次選考にうつらせていただく。次に、第2次選考では6作品から3作品を選んでいただく。第2次選考用という用紙を置いているが、その用紙に記入いただく。前回の校名・校舎名と同様に得点を第1候補は3点、第2候補は2点、第3候補は1点ということで得点をつけていただき、得点の高かった3作品を最終選考にうつしていく。最終選考は、皆さんの協議により最終的な決定をしていただければと思っている。なかなか意見がまとまらないということもあるかもしれない。その場合には多数決ということも記載している。合わせて、校章が決まるので、この校章が「奥大山江府学園」の校章にふさわしいという理由についても委員の皆さんからご意見をいただきたい。

副委員長 選定の仕方を説明いただいた。確認したいことはあるか（意見なし）。では、早速6点を選ぶ作業にとりかかりたい。

----- 第1次選考作業 -----

第1次選考結果

作品番号	13	14	18	19	20	102
------	----	----	----	----	----	-----

副委員長 ここから3点を選んでいただき、その3点から第1候補、第2候補、第3候補を選んでいただく。これは番号を書けばよいか。

事務局 数字を書いていただければと思う。

副委員長 では、よろしくお願いします。

----- 第2次選考作業 -----

第2次選考結果

作品番号	14	20	102
------	----	----	-----

----- 最終選考 -----

副委員長 最終選考になるわけだが、3点が選ばれた。最終選考は協議によって決めるとなっているので、委員さんのご意見をいただきながら、1点決めていきたいと思う。まずは、自分はこれだなというものを決めていただきたい。もしよければ、デザインの説明を読んでいただいたら。

事務局

では、読みあげる。

作品 番号	説 明
1 4	名峰大山と若葉を基調に、希望を育み未来へ花を咲かせる奥大山江府学園校を象徴的に表現しました。町の木ブナの葉と町の花あやめを盛り込み、緑は大地と若葉、黄色は光とみのり、赤は太陽、紫系は文化で、豊かな自然と風土に生まれ、学習環境に育まれた同校を明快に現代的にイメージしました。
2 0	江府町のシンボルの木、ブナの葉と大山を図案化して描き、希望の象徴虹と重ね合わせました。さらにその周囲に5人の児童生徒が手をつないでいる様子（上から見たデザイン）を描きました。奥大山江府学園の児童生徒が手を携え、協力し合い、地域の中で生まれ、希望に向かって成長し、いつの日か自分の花を咲かせてほしいという思いを込めています。
1 0 2	江府小学校と江府中学校が合体したので、小学校の校章と中学校の校章を合わせた校章にしました。

副委員長

以上、その思い、デザインの説明も聞いたところで、どれにするかというのを決めていただく。校名を決めた時にもお一人ずつご意見を聞いていったので、今回も同じようにさせていただければと思うがよろしいか。

委員

今どちらがいいか悩んでいる。では、102番で。

副委員長

（理由は）煮詰まってきたら（改めて）聞くので、102番ということで。理由などあったらどんどん言っていただきたい。

委員

校章というか全然決められていないが、自分が選んだのは中にある。今説明を聞いていたが、説明を聞かずにパッと見てわかりやすいのは102番。というか、どれくらい江府町のことをわかっておられるかわからないが、説明から伝わってくる部分があるのは102番だったなど。102番。

副委員長

わかりました。次、お願いします。

委員

私も102番がいいかなと思ったが、説明を聞いて20番の、「5人の子どもたちが手をつないで」というのがいいかなと思ったので、20番で。

副委員長

わかりました。次、お願いします。

委員

私も作られた思いを聞いたら、20番がいいかなと。

副委員長

はい。お願いします。

委員

迷っていて、102か20だが、20に「奥大山」という言葉があったら、20がいいかなと思って。「奥大山」という言葉があるといいなあと思うので、20になったら「奥大山」が付け加えられないかなと思っているが、1

02もいいなと思ったのは、本当にぱっと伝わってくるというのは力強くいいなと思うので迷う。明快な説明もあり、力強いところとかいいなと。シンプルで伝わってくるのがいいなと。迷っている。

副委員長
委員

わかりました。お願いします。

私は20番がいいと思う。奥大山の形もちゃんと描いてあるし、「KOFU」というのがローマ字で書いてあって、今風の感じかなと思った。そこに「5人の子どもが手をつないで」というのも、とてもいいなと思った。

副委員長
委員

委員、お願いします。

自分も一緒に20番。102番、20番と皆さんと同じように悩んでいたが、新しい学校をという思いもあって、デザインも今風というかしっかり作りこまれていいんじゃないかなという思いで20番。

副委員長
委員

わかりました。お願いします。

自分も正直悩みながら決めている段階だが、14と20で江府らしさの江府というか奥大山を感じる部分が大いなので14と20ですが、20番ですね。

副委員長
委員

迷われているということ。

流れを変えたいと思って14番で。それぞれにいいと思うが、いろいろあるが14番がいいなと思った理由は、まずは大山が入っていてあやめとかも入っているということと、「江府」という文字が入っているので、学校の名前もフルネームで入っているというのがわかりやすくいいかな。それもローマ字で入っているということは、漢字が読めない、いわゆる日本人じゃない人にもわかるので、やっぱりそういうのがいいのかなというふうにした。14番で。

副委員長
委員

わかりました。お願いします。

ちょっと言いづらかったが、14番が自分はいいいなと思っている。色合いが好き。ぱっと校章というのもイメージして。あと102番は、もし補作が認められるんだったら、102番の色合いや羽を調整したり、あと中の「奥」というのをフォントを変えたりしたらどうかなというふうにも思っていた。

副委員長

わかりました。補作についてはまた必要があればということで検討させていただき余地はあるのでは？

事務局

前回、作品が決まった時点で補作の必要があるかどうか検討していただくと話している。

副委員長
委員

選ぶ上で検討していけるということ。では、委員。

102番はとても気持ちがわかる、今の学校も好きで一緒になってというのがわかる。まさにこの3つともいいなあと思っていたので、どれになってもいいが。どうしたらいいだろう。20番がいいかな。

副委員長

決めるのは難しいけど、あえて言うなら20番ということでよいか。

委員 はい。

副委員長 委員長、お願いします。

委員長 僕は20番がいいかなと思って。「5人の子どもが手をつないで」共に伸びていくという。他にはないので。特徴があっていい。しかも大山とブナの葉っぱと青色になっているあれは虹で。虹なんです。14番も先ほど言われたようにフルネームで、あの赤い字は太陽。「日輪は」の太陽。あれもいいなあと思ったり迷ったが、20番にしたいと思う。

副委員長 はい。私も迷っているが、最初20番だと思っていたが、線が多くてちょっと線がいっぱいあるのはごちゃごちゃした感じがするのかなと思ったが、委員長おっしゃったような、風が吹いているような流線形みたいな感じがあって爽やかさもあるのかなというような感じで20番もいいかなと思っている。ただ、14番がすっきりとしていて、葉っぱのところはかなり目立つのはあるが、インパクトがあるのかなということも思って14番も捨てがたいなと思っている。あえて14番かなと思っている。

委員 今一人ずつ聞くと20番が多めだが、102番、14番もいるということで、数的には20番が多い状況ではあるが、一人ずつの意見を聞いて、どうするかというところではあるが、どうか。それぞれがいいなというところがあるので。やはりこれがいいという強い思いみたいなものを出していただくと、皆さんも説得されるかもしれない。どうか。ちょっと決めきるのは難しい。

副委員長 皆さんの話を聞いたら14番も捨てがたい。それぞれ作った人の（思いがある）。決めきれない。

副委員長 決めきれない。あとはそのテーマのあたりだが、デザインもだが込められたテーマ性みたいなことでも考えていきたいと思うが、そういった意味では20番とかいろんな人や自然やというようなことが描かれていてテーマ性があるようにも思うし。それぞれあるが。いかがか。一人ずつ言っていたが。

委員長 今の男子は帽子はかぶらないので、帽子はイメージしてもらわなくてもいいと思うが、例えば男子であれば襟につけるとか女子だったらセーラー服にはならないかもしれないが、胸に飾ってかっこいいなあという子どもの視点でこれはかっこいいぞという視点で考えたときに、20番かなと思ったりする。皆さんの意見を聞いて決めたいと思う。

副委員長 どうか。

委員 20番の青色のところは虹なのか。川？虹？。虹と書いてあるのか。日野川かなと思ったが。

委員長 川か。読み違えたかもしれない。

事務局 虹。

委員 校章は校章旗になったり、さっき言われたようにマークになったり、体操服とか様々なものになるので、やっぱりシンプルというのは大事な事かなと。今話を聞いたら、14番もいいなと。そういわれてみればどんと大山があったり、ブナの葉とかあやめとかも入っているので、これはこれでまたいいなと。シンボルという感じではほんとに迫力がある。遠目で見てもいいなと思うからこれはこれでいいなと思う。よく見たらフルネームで書いてあったりとかされている部分もあると。

委員 わかりやすい。14番ぱっと見たときに。

委員 大山がどんとあるということが大事かなと。

副委員長 他にはいかがか。今ふと思ったが、奥大山の形って台形な感じで富士山みたいな感じではないなという気もして、20番の真ん中の大山がこっち（14番）に来ないかなみたいなのだったり。なんか米子の方からみたようなというか、伯耆町から見た大山に見えるというか。このへんは許してもらえるのであれば、修正をすることはできるのかもしれないが。

委員 大山の形は奥大山の形に変えないと。

副委員長 そうですね。こういうのでは。その他いかがか。皆様のご意見を聞いている限りは20番か14番かという方向にいつているのかなというふうに思うが、どちらかということに合わせていただく方向でもよろしいか。あとは、決定的にこれだという皆様のご意見が集まらないようなら多数決をとらせていただくということになると思うが。どれに決まったとしても良い校章になるのは間違いないと思うので、補作ということも視野に入れながら選んでいただくことにはなると思う。その前に一言言っておきたいということなどはないか。いかがか。

委員 どちらも良いので、ちょっと決め難い。皆さんの多数決でよいと思う。

副委員長 先ほど、14、20に絞ろうかと思ったら、ちょっと待ってと委員さんもおっしゃったので、102番も捨てがたいというの。

委員 102番は、気持ちはわかる。

副委員長 では、14、20の中から。いやいや、やはり102だという方もいらっしゃるかもしれないが、ではこの3つの作品から多数決で決めさせていただくということではどうか。では、どのようにさせてもらうか。

事務局 (用紙に) 1つだけ書いていただいて。

最終選考結果

作品番号	14	20
得票数	6	7

事務局 20番に入れた方から「奥大山」を入れてほしいというのがあったので、意

見としていれておく。

委員 江府の字がちょっと下が濃すぎるために字がはっきり見えない。もうちょっと下が薄くなるか。

委員 系統の違う色とか。

委員長 接戦だったというのは、これは「Okudaisen Kofu Gakuen」が捨てがたいという方も中にはあったのではないかと思う。今言われたように、個人的な意見だが、これを入れてほしいけども漢字ではなくかっこよく向こうと同じような書体でもいいし、もう少し字が小さくなるが、「okudaisen kofu」という字を小さくしてもいいから、ローマ字。個人的な希望です。漢字ではないほうがいいなあと。漢字の方がいいという方もあるかもしれない。その人は意見を言ってください。

副委員長 とりあえず、メインとしては20番ということで決定させていただく。あとは、こういう要望やご意見が出ているわけだが、デザインされた方の了承もいるのでは。補作をするかもしれないということは了承をもらって。

事務局 補作をするということについては要項に挙げているので、それについては了解済みだと思う。あとは補作をするのを、本人に言って補作をしてもらうという方法もあるのかなと。おおもとのデザインはこういう形でということである程度技術をもっておられる方に、このデザインを活かしながら先ほどあった「Okudaisen Kofu Gakuen」とか「okudaisen kofu」というような文字をいれてもらう、色についても少し変えてもらうというような方法はあると思う。

副委員長 そのあたりの検討は、どうするか。ここでしたほうがよいのか。

事務局 補作の方向性はしておいた方がいいと思うが、今「okudaisen kofu」を入れるということと、「KOFU」の文字というのがあった。「奥大山」を入れるということと、ローマ字でというのは両方合わせて「okudaisen kofu」という言葉を入れるという意味でとらえさせていただければ、それを入れる方向で補作をするということを基に。誰にお願いをするかということは、ここでは決められないと思うので、そこだけ確認できればと。皆さんでここは補作をというところがあれば。

副委員長 今割れているのは、ローマ字で「okudaisen kofu」と入れるのか、漢字で入れるかの辺であるが、そこはどうか。補作をお願いするにしてもそこが決まっていないと困ると思うが。ローマ字の方向でよいか。位置も、上がいいとか下がいいとか、「KOFU」のところがいいとかあったが。

委員 あまり同じところに詰めてくるとバランスが悪くなるというか。今言われた、ローマ字で入れたらどこの国からでもというその発想も大事だなと。

副委員長 デザインされる方はいろいろ置いてみられてバランスを見て、これみたいな

感じではないかと。

事務局 この文言入れましょうとか、見にくいというあたりを話させていただいて、補作をしてこういうふうなデザインというふうになるのかなと。

委員長 応募された方にお問い合わせはできないか。

事務局 それもあると思う。

委員長 バランスをとってもらわないと。せっかくのデザインなので。バランス感覚がすごい大きな影響があると思う。

副委員長 そのこのあたりも検討は事務局の方にお問い合わせしてもよいか。

事務局 「okudaisen kofu」という言葉

副委員長 「gakuen」は入れなくてもよいか。

委員長 長くなるとごちゃごちゃして。

副委員長 「okudaisen kofu」で。では「okudaisen kofu」というのをローマ字で入れるということよろしいか。あとはお任せするというので。頷いておられるのでじゃあそれでいかせてもらうということ。

委員 色もなんか暖色系なりにしては。

事務局 文字のところか。「KOFU」という文言を「okudaisen kofu」に変えた場合の位置、色というところで検討してもらうということよいか。

副委員長 よいか。色は暖色系がいいということだが何の色か。

委員 言葉の色が。同じような色ばかり。

委員 色については何パターンか作ってもらった方がいいのでは。

副委員長 その方がいいかもしれない。そういったところも含めて、そこもお願いしてよいか。その他よいか。校章については。案ができれば、いくつかできればそれをまた選ぶということが必要か。

事務局 色づかいとか位置とかもし何パターンがあるのであれば、やはりその中からこれというのはやはりここで相談いただくことになるかなと思う。一つより何パターンかある方が委員の皆さんも比較検討していただけるのかなと思うので、補作としては何点か候補として作ってもらうという方向で相談した方がいいのかなと思う。

副委員長 では、それは次回ということよいか。では20番をベースにしながら、少しいろいろ補足をしていただきながらいくつかのパターンの中からまた次回選んでいただくということよろしく申し上げます。

(2) 校歌について

副委員長 残り時間が少なくなってきたが、校歌についても検討したいと思う。議会の方にも前回の話し合いのことについて報告をしていただいたと思うので。

事務局 前回委員の皆さんが校歌に対する思いをお聞かせいただいて、それを基に議

会の方に報告をということだったので、議会に私の方で報告をさせていただいた。日にちがなかったので口頭でということだが、資料の3ページに挙げている校歌についての主な意見というのはメモしていたので、こういったことについてご報告を申し上げたところ。数としては中学校の校歌を残すという意見の方が多いということもあったのでそこも伝え、新しい校歌がいいという意見があったということも合わせてご報告をしたところ。議会の方からは、この方がいいとか、こういうふうにしていくようにという発言はなかったが、中学校の校歌を残すという意見が多かったということについては、頷きも見られた。議会としては中学校の校歌を残すという意見なのかなと、議会で報告して感じたところ。

副委員長 ありがとうございます。この論点メモにも書いてあるが、このような意見、中学校の校歌を残す、もしくは新しい校歌を制定するというのが、多く二つ意見があったと思うが、できれば今日、委員長おっしゃったが、方向性は決めていきたい。校歌を決める委員会を作ってはどうかというような意見もあったが、これまで義務教育学校にしていくとかそういった方向性もこの委員会の中で決めていったので、校歌の方向性についてもこの中で決めていく。我々の中で責任をもって決めていくということできたいと思う。皆様のご意見をお願いしたいと思う。前回からの引き続きの内容で、時間もあまり残っていないので、皆様のお気持ちをひとりずつお聞きするような形でやっていきたいと思う。先ほども委員長さんには江府中学校の校歌を残したいというご意見をいただいているが、委員の皆さんに一言ずつお願いしたいと思う。委員、お願いしてよろしいか。順番になってしまうが、よろしく願います。

委員 自分も中学校の校歌を残すということに賛成。いろんな人に出会って、その声を聞いてもやっぱり中学校の校歌を残したいという方の声が多かったと思っている。

副委員長 委員、お願いします。

委員 中学校の校歌に思い入れがあるということが我々が検討した中でも出ていると思うので、それをベースにするということでもいいと思う。ただやっぱり大事なので、時間はないとは言え、しっかり議論した方がいいのかなとも思う。

副委員長 委員、お願いします。

委員 委員会で決めるということなので、いろいろと前回の資料なんか読み返してみても思うのは、新しく作るより伝統。作詞作曲が素晴らしい方にやっていただいているという前提もある。あとは先ほどから意見がある通り、歴史を引き継ぐという意味でも、中学校の校歌をベースにした方がいいのではないかなと感じているのでその方向がよいのではないかなと思う。

副委員長 わかりました。委員。

委員 自分は前回出席できていないが、やはり中学校の校歌を残したいといった声がたくさんあったという中では、そういった声をしっかり残していけたらなと。中学校の校歌をベースにおいて、そこから何か取り入れたりする、もし取り入れるとしたら、そこから何か付け加えて何かできたらなというのはあるが、中学校をベースにできたらなと思う。

副委員長 はい。委員、お願いします。

委員 自分は、新しい校歌の方がいいなと思っている。中学校の校歌も思い入れもあるが、小学校の校歌も子どもたちが歌っていてすごく好きなので、どちらかというよりはどちらも大事だなという思いで、前回もあったが校舎歌として2つ残して新しいものを取り入れたほうがいいのではないかなという思いでいる。

副委員長 はい。委員。

委員 自分は中学校の校歌を義務教育学校の校歌とした方がいいなと思う。住民の方の愛着があるということで、中学校の校歌を残したいと思う。

副委員長 委員、お願いします。

委員 私はいろいろな方々の意見を聞いて、中学校というのが多いのもわかっているが、気になるのは、「ああ 江府中」を早口言葉のように入れ込むというのは気になってそこが引っかかる。ので、本当にうまくできるのかなと思うので、委員さん言われたように、校舎歌として大事に残して歌っていく、だけど新しい校歌を作るという方法もありかなと思う。あんまり無理やり変えるのもちょっと気になるので、うまく納得のいくものになるなら本当にいいなと思うが、本当になるか、そこがちょっと少し気になっているところ。

副委員長 はい。委員。

委員 自分は、やはり中学校の校歌を残していつてもらいたい。

副委員長 はい。委員。

委員 自分も中学校の校歌を残していつてほしいと思う。

副委員長 はい。委員。

委員 自分も同じになるが、中学校の校歌をベースにして良いものができたらいいなと思っている。

副委員長 はい。委員。

委員 私は前回と一緒に小中の校歌を残して新しい校歌を作る方がいいのではないかと思う。

副委員長 私はやはり中学校の校歌でいきたいという思いを持っている。
それぞれ意見をいただいて、中学校の校歌をとという意見が多いわけだが、校舎歌としてそれぞれ残しておいた上で新しい校歌をとという意見も3名いた

いているし、どうするかなというところ。新しい校歌については、こういった内容をやっていきたいとか、積極的になんかこうこういうことを盛り込んでいきたいとかというようなのがあったりするか。いかがか。せっかく新しいものを作るので、こういった内容にしていきたいとかいうようなものもあるのかもしれない。委員、どうか。

委員 そういう思いはない。ただ、小学校の校歌もいいなと思っているし、小学校で校舎歌、例えば、中学校の校歌にして、小学校の校歌を校舎歌にしたらいんじゃない、じゃあ校舎歌いつ歌うのということにもなるし。じゃあどちらも大事ってなって、全く新しい校歌でという方がいいのではないかと。あれを入れたい、こういう校歌にしたいというイメージはまだまだ全然ない。

副委員長 わかりました。委員、いかがか。

委員 イメージは様々、日野川とかブナの森とかそういうことを入れたらいいと思うが、こうなってほしいなという希望とか夢とかそういうのを入れたらいいと思うが。新しいものであれば。もし江府中の校歌をそのまま踏襲して変えるということだったら、そののところをしっかりと準備して、本当にこれならいけるというのでやってほしいので、1回歌ってみるとかそういうのがすごく重要だと思っている。毎回歌うのに、えー、なんとなくと思うよりは、納得してこれだったらいけるというシミュレーションをしてみしてほしい。歌ってみる。そこはちょっとやってみてほしいなと思う。これだったらいいなと思えば、皆さんの気持ちだし、全然いいとは思う。歌うのは子どもだったりするし、その辺もみんながその納得する形でやってほしいなということだけである。

副委員長 江府中をベースにしたものもいいものになれば、いいじゃないかという。

委員 そうですね。皆さんがそれを言うておられるのに、それに言い張るとかそういうことはないが、そこをきちんと納得をする形で進めていく方がいいなと思っている。

副委員長 わかった。委員、何かあるか。

委員 委員と一緒に、もう少ししっかりと吟味してみんなで話し合っただけで決めたほうが。中学校の校歌を残す形でいいんじゃないというのではなくて、残すにしてもどういうふうにするか、言葉を変えるのはどうするのか、そこをきちんと話し合わないと、なんとなく中学校のいいんじゃない、残したいからというのはちょっとなんか違うような気がする。心の中では委員が言われたように、新しいものにしたいなと。中学校の校歌だけ残す形に受け取りかねないので、小学校の校歌も残してあげたい。

副委員長 小学校の校歌もいい校歌、という意見があるが、おそらく今皆さんのご意見を聞いていると、今までずっと伝統的に歌ってきて町民の皆さんが大事にし

ている歌ということがあって江府中学校の校歌を残したいという伝統という部分、続けてきているという重さがあるのかもしれないし、校章も新しいスタイルのものにもなったし、新しいものなんだから新しくしていこうという前向きにそういうふうに捉えられているということもあると思うので、どちらが優れているということでもないのかなと聞きながら思うが、これもやはり決めていかないといけない。もし、歌詞とかを変えていくということになったら、どのような手続きというか、江府中学校の校歌を変えていくとすれば、委員さんからも納得いく形で、これならいけるというものにしていけばということがあったが、仮に中学校の校歌をベースにということになれば、どんな変え方が想定されるのか。

事務局 私も経験がないのでわからないが、イメージからすれば、作詞については草野心平さんという方がおられるので、その方に、歌詞を変えるということについては、その方のご存命ではないのかもしれないが、連絡をして了解を得るということには必要だと思う。作詞という詞の部分については、全体を通しての作品と考えると、大きく変えていくということは難しい。難しいというか、いわゆる江府中の校歌を残していきたくという皆さんや委員さんの思いも含めて考えた時に、一部江府中学校という名称のものがなくなるという、そこをこういうふうに変えさせてもらいたいということで草野さん側に説明していくという考え方になるのだろうと思う。

副委員長 わかりました。

委員長 変えるといっても、さっき事務局が言われたように草野心平さんの歌詞をごろごろごろごろ変えることはできない。一般常識的に。今言われたように「ああ 江府中」のところをどう変えるぐらい。

副委員長 そのあたりはいくつか候補を挙げてじっくりくるものを見つけて、草野さんの方にこれでどうですかというオファーをしていくということか。もし中学校のでいくということになれば。

事務局 そうなるだろうと思う。こういう形で詞の一部を学校が新しくなるということで、変えさせていただきたいということで連絡をとらせてもらうことになると思う。

委員長 いろいろ小学校と中学校が一緒になるので、何にも新しくしてやろうという気持ちはわかるが、ある面では頑固に残すというものもなくてはいけないと思う。草野心平さん。小山清茂さん、このペアはもう亡くなっておられるのでないが、この方と同様の方をお願いといってもとてもお願いできるようなことにはならない。我々が何人か集まって先回小学校の校歌を作ったが、小学校を作ったなじみの校歌は校舎の歌として小学校で歌ってもらえばそれはそれでよいのではないかと。ただ学園歌は一本で、江府中学校の校歌を活か

しながら。町民のほとんどの方と言ったらちょっとオーバーだが、残してほしいというのが本音ではないかと思う。議会も、これをしなくてはいけないという言い方ではないが、そういうあれなら江府中学校の校歌を残してほしいという、議員さんも町民の代表なので、そのへんわかっていて物を言っておられる。決めるのはこの会で決めるわけだが、無視することはできないというあたりは持っていると思う。なので、今日江府中学校の校歌の一部を変えて活かして残していくという、そういうことが大事ではないかと思う。新しくという方の気持ちがわからないわけではない。わけではないが、そういう面もあってもよいのではないかと思う。

委員 「江府中」のところに、「江府学園」というのはかなり語数が多い。それをどう組み合わせるかというのがなにかあるか。どんな風に。

委員長 「江府中」2拍半くらい。「ああ 江府中」それを例えば、「ああ 江府中」を「ああ 江府学園」と入る。拍数からいけば。

副委員長 この議論は、たぶんいいと思っておられるのがいろいろあるので、それを言い出したら今日たぶんおさまらなくなると思う。今、委員が言われるのは、いくらこれでいこうと思ってもいいものにならなかつたらやっぱりダメでしょうということがあると思う。本当にそうだと思うので、今、「(ああ) 江府学園」というのなのか、「(ああ) 江府町」なのか、いろんな意見がある中で、皆さんがこれならいけるというものを見つけることができれば、いいだろうと。早急に今日決めないといけないということはないのかもしれないが、今ずっと、おそらくこの新しい曲がいいと言われる方はその思いをもっておられると思うし、この伝統ある江府中の校歌を残したいというのもあるとは思いますが、例えば、新しい校章になったので、それに合わせたものにしていくべきだという積極的な思いがあって新しい校歌を作っていく。その新しい校歌を作っていくって、みんなで新しい学校をつくっていくというような雰囲気が出て盛り上がるということだったらそれでもいいのではないかと思う。ただものすごい労力があるだろうと思う。江府中学校といつつ、町内みんなの多くの方が歌ってきて、そうか新しい学校はできたけど、あの校歌なんだと。かなりお年寄りの方も親しみをもってもらえるのもこの江府中学校の校歌の良さなのだろうし、いろんな良いところがそれぞれあると思うが、何がこの江府学園にとって必要なのか大事なのかということを考えて上で、決定をしていただきたいと思う。私は個人的には江府中学校の校歌がいいと思うので、新しいのだから新しいものにしようというところよりは、伝統の部分を大事にしたい、それはそれで町民みなさんの意見が、思いが親しみの思いとかそういったものが持ってもらえる、大事に思ってもらえるのであればやっぱり中学校の校歌がいいだろうと個人的には思う。いかがか。

- 事務局 いろいろとご意見を聞かせていただいて、しっかり話し合った方がいいという意見もあったので、方向としては、今の話でいけば江府中の校歌なのかなとは思いますが、あとはおさめ方という問題もある。校章のことについても補作という話もあったので、次回にその補作の作品を見ていただいて最終的な結論をみるということと、江府中の校歌を残す場合にどのような言葉のおさめ方があるかということも次回検討していただくといいのかなと思う。この準備委員会で検討いただくことは、あと閉校式、開校式というようなあたり。学校を閉じる学校を始める、という内容についてここで検討いただくことにはなっているが、それはもう少し先でもいいのかなと事務局でも思っていたので、今日出た意見を基にもう一回話し合っていたということはありませんか。
- 副委員長 おそらく、どんなのがいいのかということは、ここで皆さんのご意見を聞いてもなかなかまとまらないだろうと思う。校章と同じように、候補があると検討しやすいのかなと思うが、候補を次の委員会までに用意しておくというのはどうか。
- 委員 先ほどいわれたのがすごく重要だと思っている。時間はある、スケジュールがある、その中で新しいのを作るとなると、さっきの話でそれなりに動かないといけないし、江府中ベースにやるのであれば、それは時間的な余裕もあるとおっしゃっているので、そのへんは本当にどういう方向で進むのかが決まらないとは思いますが。そもそもの話、歌を変えるというのは、どこまで許されるものなのか。言われたように江府中だけ入れればいいのか、江府学園だけ入れればいいのか、奥大山江府学園、本当は入れたほうがいいのかと言うと、最後のところだけ編曲で変える、歌が長くなるにしてもそれが入るように編曲してもらえば、おさまって土台は変わらずみたいなのができるのかもしれない。たぶんいろんな意見が出てくるので、逆に言うとそういうのも踏まえたいので案を出してもらおう方が。仮に中学校の校歌をベースにするなら、言われたように、こういうのはどうですかという何案か出してもらおう方が話が進みやすいと思う。新しいのを作るとなれば、どこから始めるのかというところをちゃんと考えてやらないと。私が前回も言ったが、委員会を作ってやった方がいいと言ったのも、そのあたりの話があるので、ここで皆さんで編曲してやりましょうといってもできないので、進め方を次回でもいいのできっちり決めていただいたほうが話が進むのではないかと。
- 副委員長 いかがか。まずは、中学校の校歌なのか新しいのにするのかというところは決めないと動けないと思うので。
- 委員 逆に言うと、そこが決まらなると全然スケジュール感が違ってくる。
- 副委員長 中学校の校歌を使うのであれば、ある程度今皆さんが思っておられるような

意見があると思うので、それで一番じっくりするのはどれかというところで、それぐらいの変更は認めてもらえるのかというふうに、作詞をされた草野家の方に聞く。編曲ということになれば作曲の方にも聞かないといけないということなのかもしれないが、そういった可能性の部分でこれならいけるといものじゃないと皆さん納得できないのかなとも思う。これは次の委員会までに、何らかの方で集まって検討するというのは難しいか。

事務局 中学校の校歌をどうするかみたいなことを何人かで集まってするということが。

副委員長 それで皆さんがこれだったらいけるだろうということになれば、中学校の校歌でいくという方向性が決められると思うが、いろんなことを考えたけど無理があるなということになれば、難しいということにもなってくるし。どうか。

委員長 編曲はできない。(曲の)流れというものは(変えられない)。変えるとすればほんのわずかな部分だと思う。

委員 残すのであれば、極力文字数は少なくということしかないと思う。でないと全体のバランスが崩れてくると思う。自分は心の中ではもうこれかこれかなというのが実はあって、このあとと言って帰ろうかなと思う。「江府中」を「江府町」と変えて、そこだけ変えるか、「我らが母校」のところを「我らが母校」で歌うか、「我らが母校」のところを「奥大山江府」か、それくらいしか変えられないのかなと思う。この歌を使うならそれくらいかなと。

委員 それなら、本当に歌詞を見て、本当にいいバランスか見ないと。伴奏して歌えるくらいのことを思わないと、本当にできるのかなと。やっぱり、こうだなと思えるような歌で仕上げるというのがいいと思うので。きっちり見て、その歌詞をはめてみてやってみるのがいいかなと思う。(伴奏を)用意しておいて。次回どうか。

委員 校名が入っていない校歌もある、実際。その案はいくつか出して。

副委員長 江尾小学校は「江尾校」だったか。

委員 「江尾校」。

副委員長 もし、可能だったらその何人かの有志というかそういった方で、これではどうかという提案をいただければと思うが。どうか。その集約を事務局ですてもらうのは可能か。

事務局 原案はこちらの方で、いくつかパターンがあつてこういうふうなものはどうかということはお示したうえでご検討いただかないといけないとは思っている。

副委員長 次回、その案で歌ってみてというようなことは。

事務局 歌ってみることは大事。校歌なので。文字面だけ見ていて、バランスがとい

うところもあるだろう。そこは実際に口ずさんでみてというところも含めて最終的にこれがいいというふうなことで。

委員 改めて歌詞も確認して、ああやっぱりいいなあというのもあると思う。そういうのを確認したり、歌ってみて、いいなあというふうに確認してからというのがいいと思う。

副委員長 そのあたり、アイデアがあれば事務局の方に伝えていただくという形で。次回それを候補として挙げていただくということによろしいか。

事務局 ぜひ、アイデアがあればお聞かせいただくと、いろんなパターンとしてお示しできると思う。

副委員長 では、今日は多くの方が江府中学校の校歌でということであったし、それがきちんと歌えるものになる、いいものになるということであればいいのではないかというご意見をいただいているので、方向性としては江府中学校の校歌でいく方向で検討するというので、今日、前向きに検討していく形でいきたいということではいかせていただいてもよいか。その理解でよいか。ではそのように、次回検討できるように準備をしていきたいと思う。よろしくお願ひします。

4 その他

※第7回の期日について協議

5 閉会

委員長 慎重審議していただきありがとうございました。PTA の部会とか制服の部会の方も着々と進んでいるということで、いろいろお世話になる。それから、校章については20番に決まったが、こういった内容で検討していただくと、提出された方をお願いをするということで、いずれにしてもいいのができたなというふうに思っている。校歌については、江府中学校の校歌でいこうというのが決まったような気がしているが、その中身、どこをどういうふうに直すかはそれぞれ皆さんから事務局にこういう形はどうですかということをご提案をさせていただいて、それをまとめたものを次回に話し合うというような形になろうかと思う。いろいろ慎重審議していただきありがとうございました。着々と進んでいるというふうに思っているの、ありがとうございました。以上である。

副委員長 ありがとうございました。お疲れさまでした。

○第7回委員会

- ① 日時：令和2年11月30日（月）19：30～
- ② 場所：江府町防災・情報センター 2階情報研修室